

第1回あきる野市自殺対策推進協議会次第

日 時 令和元年5月27日(月)
午後7時00分～9時15分
会 場 市役所5階 505会議室

1 開 会

2 委嘱書の交付

3 市長の挨拶

4 自己紹介

5 正副会長の選出

6 正副会長の挨拶

7 議 事

- (1) 自殺対策に関する国及び東京都の状況について
- (2) あきる野市における自殺の現状について
- (3) 自殺対策に関連するこれまでの市の取組について
- (4) (仮称)あきる野市自殺対策推進計画の構成(案)について
- (5) 今後のスケジュール(案)について
- (6) その他

8 次回日程について

9 閉 会

出席委員(12人)

会 長	植 田 宏 樹	副会長	石 井 雄 吉
委 員	山 崎 敦 子	委 員	山 田 修
委 員	鈴 木 孝 子	委 員	栗 原 和 夫
委 員	曾 我 有 二	委 員	神 座 秀 夫
委 員	藤 森 文 子	委 員	金 子 桂 一
委 員	田 中 恵 子	委 員	清 水 康 雄

事務局

健康福祉部長	川久保 明	健康課長	鈴木 修
健康づくり係長	高水 洋輔	健康づくり係主査	岡村 とも子
健康づくり係	大房 隆之	健康づくり係	山本 美夏

議事要旨

1 開 会

○事務局説明事項

- ・あきる野市自殺対策推進協議会公開要領に基づき会議を公開していることを説明
- ・協議会設置要綱第8条第3項の規定により成立していることを報告

2 委嘱書の交付

○澤井市長より、委員12人に対する委嘱書の交付

3 市長の挨拶

○澤井市長より挨拶の実施

- ・平成28年に自殺対策基本法の改正がなされ、自殺対策計画書の作成をすることとなり、今回委員各位にお願いした次第である。
- ・この計画を策定することにより、保健、教育、医療、労働その他色々な関連施策を有機的に連携が図られ、生きることへの包括的な支援が可能になるのではないか、思っている。
- ・委員各位の色々な見識をいただきながら、この計画書をまとめていただくことをご期待するとともに、あきる野市の自殺が一人でも、1回でも少なくなればと考えている。

4 自己紹介

○委嘱された12人の委員から自己紹介の実施（略）

○事務局の自己紹介の実施（略）

5 正副会長の選出

○協議会設置要綱第7条の2の規定に基づき正副会長の選出

○会長に植田宏樹氏（あきる野市医師会 秋川病院院長）、副会長に石井雄吉氏（明星大学 心理学部 学部長補佐）を選出

6 正副会長の挨拶

○植田会長挨拶

- ・各委員の意見を色々教えていただき、より良い自殺対策推進を作れたらと思うので、是非、宜しくお願ひしたい。

○石井副会長挨拶

- ・自殺というのは非常に複雑な事象で、非常に複雑な要因がからんでいるということで、是非皆様のご協力をお願いしたいと思う。

7 議 事

○協議会設置要綱第9条第2項の規定により、植田会長により議事の進行

7-（1）自殺対策に関する国及び東京都の状況について

※資料1「自殺対策に関する国及び東京都の状況について」に基づき事務局より説明
〔質疑〕

※質疑は特になし

7- (2) あきる野市における自殺の現状について

※資料2「あきる野市における自殺の現状について」に基づき事務局より説明〔質疑〕（□は委員からの発言、質疑等。 ■は事務局からの発言、説明等。）

□自殺者は他市から来て、それがあきる野市に住むようになって自殺するケースが多いのか、あるいは2代、3代続いた方々が自殺されているケースが多いのか。

■残念ながら資料としては手元にない。

□市民の方以外が多く自殺されているホットスポット（自殺の名所）といわれるところはあるのか。

■資料を地図に落とそうと計画したが、そこまでは資料として入れられなかったもので、分からない。

□自殺未遂の方のデータというものはあるのか。

■未遂歴がある方が平成25年から平成29年の5年間で11人、未遂歴がなかった方が42人、不詳の方が17人となっている。

□あきる野市ではストレスチェックの対象外の事業所がほとんどということになるが、対策の一つとして考える必要があると感じた。

□20歳未満の自殺者はあきる野市ではどの位なのか。5年間で20歳未満の方で亡くなった方はいるのか。

■20歳未満にいたというのは分かるが、数字についてはプロフィールで表記されていないので分からない。

□独居老人が何人位いて、同居老人が何人位いて、人数が多いから自殺が多いのかというそういう考察は無いのか。

■あきる野市の状況を踏まえて、改めて分析させていただきたい。

7- (3) 自殺対策に関連するこれまでの市の取組について

※資料3「自殺対策に関連するこれまでの市の取組について」に基づき事務局より説明〔質疑〕（□は委員からの発言、質疑等。 ■は事務局からの発言、説明等。）

□都教委が作ったSOSの出し方というDVDがあるが、それを今の市の色々な健康のイベントで見てもらえば良いのではないか。

□ゲートキーパー研修であるが、29年度の時の参加者の方32名はどのように選ばれた職員であるのか。

■29年度のゲートキーパー研修はあきる野市として初めて実施するというので、各課一人ずつ、最低一人ずつ出てくださいよう割り振りした。

□講師の方が2回とも西多摩保健所となっているが、選択基準、選択理由を教えてください。

■市の方もゲートキーパー研修実施のノウハウ等もなかったもので、西多摩保健所に相談をし、快く引き受けていただいた。

□健康課で色々な事業をやっているが、こういうところに出てくれる方というのは安心であるが、出て来れない方の方が心配である。出て来れない方のためにどんなことをしているか。

■地域の協力者の方々と、懇談会という場を設けた時に、来て欲しいけれど来れない方について伺うようにしている。プログラムの中で少しでも関心を持ってもらえる内容を、今組み込みながら、今来れない方が来れるようになったら良いなというところを探っているところである。

□自殺者の同居と別居の方の割合を見ると、同居の方々が自殺されるのが多いと思うが、家族というのは基本的に助け合って家族になるので、そういう家族関係が崩れてきて、

自殺者が増えているのか。そういう家族関係が崩れている訳ではないというのであれば、やっぱり気づくとかそのへんの取組をしていってもらえたら、家族へのアプローチというのとも良いかもしれないと思う。

あきる野市の現状として、東京都と比較して同居の家族の方が多いというベースがある。元々三世代同居の方が多い。

高齢者であれば、正式な統計という話しではないが、やはり自殺の理由が分かりやすい。例えば健康問題にずっと悩んでいたとか。特に若い方、働き盛りのもつと若い方については、家族に聞いても分からない、なんで自殺したのか分からない。そういうケースがやはり多いというのは感じている。

自殺された方のご遺族に対するケアのようなものは、何か市として対策をしているのか。

■今、健康課の事業として、そういう方々に向け特に取り組んでいるものはないが、自死家族の皆さんのグループとか、支え手のパンフレットをいただいているので、健康課のカウンターのところに、グループの紹介のパンフレットを掲示させていただいている。

自死家族の皆さんのグループは市内にもあるのか。

■市内については把握できていない。

日野市と多摩市の方で、自死遺族の会というのがあり、活動をしているが西多摩圏内ではないと思う。

7- (4) (仮称) あきる野市自殺対策推進計画の構成 (案)、及び7- (5) 今後のスケジュール (案) について

※資料4「(仮称) あきる野市自殺対策推進計画の構成 (案) について」及び資料5「今後のスケジュール (案) について」に基づき事務局より説明

(質疑) (は委員からの発言、質疑等。 ■は事務局からの発言、説明等。)

例えば何か施策とか対策とかいったようなものがここで立案された時に、予算的に実行する裏付けというものはあるのか。

■計画が進んで、それを実行するという時に費用面のことは考えていきたいと考えている。また並行して考えることもできるので、今後は考えていきたいと思っている。

■施策の部分であるが、健康課だけではなくて、庁内の各課が連携して包括的な支援に取り組むとか、既存の事業を最大限に活かして自殺対策の方を推進していくことを予定している。

■今現在各課で取り組んでいる事業の中で、自殺に関連する事業の洗い出しの作業をしており、それらが自殺に関連するのだというところを、施策の中でうたっていければ良いかなと考えている。次回以降にこういったものも提供させていただければなど考えている。

目標値があると思うが、他の市のことを聞いていると多分なかなか難しいという。一応目標は置くけど、少なくとも行動を起こしたことに対して、どれだけの行動を起こしたよということの積み重ねが後でちゃんと報告できるようなものを作って、これだけやったのだということは、やはり残した方が良いのではないかという意見が結構出ている。

あきる野の場合、市外から来られて亡くなられる方が多い、見た感じでは他の市よりも多い。死ぬ場所、実行する場所というのがどこかこのあきる野の中に、名所みたいなものがあるのか。

今、ひきこもりが、若者と中高年で100万人を超えている。その方達がやはり実際に

自殺をする可能性は高い場合もあるので、そういう人達をどうやって外に引っ張り出すかがものすごい大切なことなのかなという気がする。

■計画自体がPDCAサイクルを活用して作成をするという形になるので、必ず事業をやった場合の評価という部分も入れていかなければならない。また、数値化をして評価をしていかなければならないと考えているところである。

□お金の問題もちょうとチェックしなければならないし、間接的にやるのではなく、ダイレクトにこういうことをしたというようなものをちょっと考えていかななくてはいけないということが大切なのかなと思う。

□ゲートキーパー研修を、あきる野市の場合は市役所職員のみという限定を貫くのか。

■市内では、色々なところでゲートキーパーの研修をしているようである。健康課で関わってやったのは2つのゲートキーパー研修であるということで、実際に職員が他の研修に行っていることもある。

□いのちの電話からのお知らせになってしまうのですが、うまく活用していただく方策を立てて実行している。

□ハローワークに来られる生活困窮者の方とか、障がい者の方とかで同居している方はいらっしゃるが、なかなか家族の方とうまくコミュニケーションを取れていないというところが多い。

□世代によって自殺するという原因は違うと思う。だから、こういう計画を作るのであれば、若年層、例えば中高年、あるいは高齢者に向けた何か対策というのがまずは必要だと思う。

□傾向的にどこが多いのかというのは、公園とか、河川敷、自宅というのものもある。他から来る方であれば公園、人気のないところ、河川敷、橋の上とかである。ただし、ここがメッカですよというところは、あきる野市でそういった特徴はないと思う。

□うつの方というのはからだの不調からまず感じられる方というのは結構いるのか。そうすると医師会の中では、いわゆる開業されているホームドクターのようなかかりつけの先生方に対して精神科の方からうつの見立てとかということで、内科の先生方に情報提供の会とかやっているのか。

□研修会があり、西多摩の研修会でそういう研修はやったことがあると思う。

7－(6) その他

※特になし。

8 次回日程

○次回の会議は7月30日、火曜日、午後7時からとなるので、予定を入れていただくことを事務局より、各委員に依頼

9 閉会